

13期 北摂の歴史ロマンを愉しむ（9月）

第11回 後鳥羽上皇と水無瀬

講師：大山崎町歴史資料館 館長 福島克彦先生

日時：9月26日（金）10:00 ～ 12:00

教室：高槻センター街ビル



・はじめに

「山崎」山陽道、西国街道の摂津国と山城国の国境にまたがる自治都市。（足利義満公認）
山陽道のみならず丹波街道の起点。山路には山崎駅、山崎津は平安京の外港で
交通の要衝。西日本の物資の陸揚げ地
平安京の出入り口（地方赴任時に見送りする地、京への帰着を実感する地）
明治の廃藩置県で大阪府の島本町と京都府の大山崎町に分かれる。

島本町 大阪府三島郡の自治体 人口 31,365 人（2025 年 4 月）

水無瀬離宮（現在、水無瀬神宮）桜井の駅（楠公遺跡）などの史跡がある。

大山崎町 京都府乙訓郡の自治体人口 16,242 人 離宮八幡宮（製油発祥の地）がある。

後鳥羽院（1180～1239）鎌倉時代前期の天皇、上皇。『新古今和歌集』の編纂。

後白河院、源頼朝、九条兼実、土御門通親が相次いで亡くなり「治天の君」となり院政を敷く。

承久3年（1221）5月14日、鎌倉幕府執権北条義時追討の院宣を出すが敗れて、隠岐に流され、現地で崩御（承久の乱）

1、水無瀬離宮の始まり

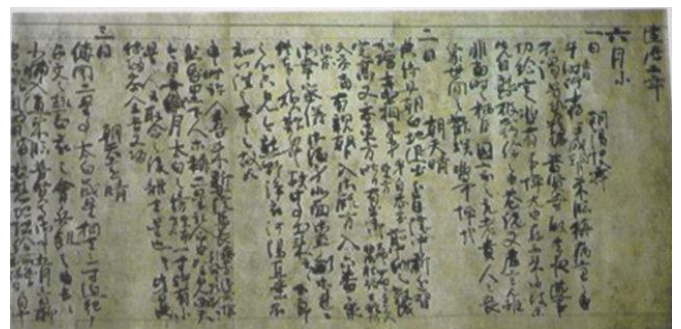
この地は内大臣源通親の別業があった。

正治2年（1200）に行幸した後鳥羽上皇は、ここを気に入り皆瀬御所を建てられたが
隠岐に流され崩御すると、水無瀬一帯は荒れ果てた。

その後、藤原信成・親成親子が御影堂を建立し上皇を祀った。

2、藤原定家の視点—水無瀬離宮への伺候

『明月記』に地元のこと、上皇の様子や旧暦の祭事など記載している。



藤原定家「明月記」

定家は鳥羽から船で水無瀬へ。東釣殿や船中で水干を着て伺候。山崎油売小屋で宿泊。

遊女列座、乱舞、猿楽、物狂(ものまね)などの遊興の様子。

大山崎 天神八王子社の祭礼(今も続いている)の様子

大雨で皆瀬川氾濫、御所浸水。水無瀬滝への御幸や山崎山での鹿狩りの様子

などを記載



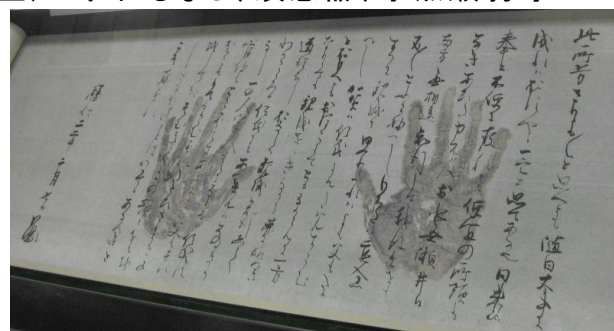
後鳥羽上皇は淀川流域の遊女を呼び、遊んだ。

現地学習: 島本町歴史文化資料館と史跡桜井駅跡史跡公園

日時: 9月26日(金) 13:30~14:15

歴史文化資料館 館長より説明を受け、その後館内の展示物を鑑賞しました。

後鳥羽上皇置文(国宝)、後鳥羽天皇像(国宝)いずれも写し、須恵器、水無瀬駒等



後鳥羽上皇筆御手印置文



楠父子別れの石像

史跡桜井駅跡史跡公園を散策後解散しました。

希望者は水無瀬神宮へ

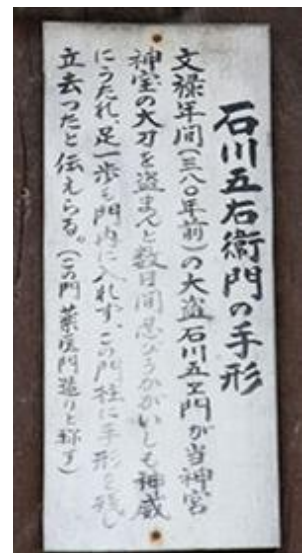
(2班広報)

・水無瀬神宮

一部メンバーは水無瀬神宮を参拝した。

鳥居をくぐると参道の奥に神門がある。

その右の柱には、窃盗を試みた石川五右衛門の手形が残っている。



境内は意外と狭く、名水「離宮の水」で口を漱いで、拝殿に向かう。

拝殿の左に秀吉寄進の客殿(重要文化財)、その奥に茶室燈心亭(重要文化財)が見える。

神宮は水無瀬離宮の跡地に建てられたが、離宮は承久の乱後荒れ果てて、

当時を偲ぶ建物は残っていない。祭神は、承久の乱後配流された後鳥羽天皇(隠岐)、

第一皇子:土御門天皇(土佐)、第三皇子:順徳天皇(佐渡)の三柱。

後鳥羽院(天皇→上皇→法皇)は「、、この世に災いをなすだろう。」と置文(遺言書)しており、

水無瀬神宮は、配流地で果てた三天皇の怨霊慰撫の目的で建てられたとも言われている。



手水舎



拝殿



客殿



燈心亭

(写真は神宮ホームページより)

水無瀬神宮参拝ののち、阪急水無瀬駅と JR 島本駅に分かれ帰路についた。

本日の歩行数1万歩超え。

(4班広報)